

天声人語

佐藤多佳子さんの新刊「明る
い夜に出かけて」は若者ことば
の宝庫だ。「ペライ」は薄っぺ
らい。「フラグが立つ」は予感
がする（先が見える）。作中20
歳の主人公の独白や会話が難解

で、知り合いの大学生に翻訳してもらった▼こうした新語の浸透度は、先日発表された第1回「現代人の語彙に関する調査」でもテーマになった。高校生世代の方が親世代よりもよく知っている言葉として挙げられた上位30語がなかなか興味深い。「デイスる」はけなす。「りよ」は了解。ネットで頻用されるが会話でも使われる▼「じわる」は、すぐにはわからなかった妙味や笑いが後になって徐々にこみ上げること。「きよどる」は不審な挙動や緊張でとちることを言う。「飯テロ」は、空腹の人が多い時間帯に、食欲をそそる写真をこれ見よがしに投稿するいたずら。半数は初耳だった▼調査では逆に、親世代にはおなじみでも高校生世代がわからない言葉も浮かんだ。「阿漕」「鞭撻」「風采」「経団連」「つまびらか」「ひねもす」「こきおろす」。世代間の溝にしばし考え込む▼小欄を担当していると折々に読者の方々からご意見をいただく。「論旨があいまい」「こなれていない」「昔の天声人語はもつと格調が高かった」。日々、身を削る思いで懸命に取り組んでいるけれど、着想も筆力もまだまだペライと自覚する▼多少はデイスられることを覚悟しながら、皆様の胸に「じわる」コラムを目指します。ご指導ご鞭撻をお願いします。